



# 鹿行教育事務所だより 第12号

令和7年3月11日(火)

QRコードから鹿行教育事務所のホームページが見られます。



## 令和6年度学力向上に係る学校訪問から

管理訪問同行による学力向上に係る学校訪問(44校)では、学習課題の設定、目標を意図した交流の場面、自分の言葉で学習のまとめや振り返りをする時間の確保等、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点を意識した授業を参観することができました。また、教務主任との協議では、学校改善プランの進捗状況や校内研究体制について確認させていただきました。その際、全国学力・学習状況調査や学習・学校生活アンケートの結果をもとに、成果や課題に焦点を当て、具体的な指導場面について協議することができました。

学力向上推進プロジェクト事業等の県事業では10校を訪問し、各校の研究テーマに沿って理論研修を行い、授業づくりを通じた校内研究の充実を推進しました。訪問を重ねるごとに主体的な研修へと変化し、教職員の皆さん一人一人の資質・能力の高まりを強く感じました。本年度推進してきた「探究的な学び」や「習熟度別指導」の好事例が多くの学校で実践されてきています。

学校全体での組織的な研究体制を推進し授業改善をすることは、教職員間の協働性を醸成し、児童生徒の学力の向上につながると考えます。次年度は「組織体制づくり」と「授業づくり」が往還し、学力向上に対して実効性のある取組となるように、学校訪問と研修会等を効果的につなげて支援していきます。

## 令和6年度生徒指導に関する学校訪問から

今年度は「授業改善の推進と対応力の向上」を生徒指導の重点として、生徒指導に関する学校訪問(30校)を実施させていただきました。訪問では、生徒指導の実践上の4つの視点(生徒指導提要[令和4年12月改訂]参照)を意識した授業改善の推進について共有させていただきました。児童生徒が主体的に課題を設定し、その解決に取り組むことや、他者と協働して創意工夫することなどが、各教科や特別活動等の指導と生徒指導を一体化させた授業づくり・集団づくりにつながることを確認しました。

また、授業参観後の校内研修では、事例を基に、学校全体で児童生徒の支援方法や関係機関との連携について議論いただき、解決の方策について共通理解を図ることができました。

昨年度に引き続き今年度も、管内の不登校児童生徒数の減少傾向が続いています。先生方の丁寧な取組や対応に、改めて感謝申し上げます。

一方、今後も児童生徒のケガや事故等、組織として迅速な対応が必要となる事案の発生も予想されるため、適切な「初期対応」とともに、より機能的な組織体制づくりを推進していく必要があると考えています。今後も、学校と関係機関をつなぐためのネットワークづくりを推進し、児童生徒が安心して学べる魅力ある学校づくりを支えていきたいと思っております。

## 令和6年度集合指導訪問から

今年度も、特別支援教育に関する専門性の向上を図るため、管内7つの会場校(管理職部会:5会場、特別支援学級担任等授業改善研修会:7会場)において集合指導訪問を実施しました。特別支援学級担任等授業改善研修会のテーマは、「自立活動の指導と各教科等との関連について」です。このテーマのもと、特別支援学級・通級指導教室・通常の学級の授業公開と、熱心な研究協議が行われました。

自立活動の目標は、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」ことです。個々の障害の状態や困難さに応じた指導目標、指導内容が必要になります。また、自立活動の時間の指導は、各教科等の指導や交流・在籍学級での学習・生活に生かされなければなりません。各協議会場では「自立活動の指導の在り方」だけでなく、「自立活動と関連を図った各教科等の指導」についても話し合いが深まるとともに、日頃の各学校における課題や成果についても共有化が図られました。次年度も児童生徒の指導、支援に生かせる集合指導訪問となるよう、さらなる充実を目指していきます。



【研究協議の様子】

## 【感謝】子どもたち・先生方、そして学校、保護者、地域の輝く未来のために

各市教育委員会並びに各校、地域の方々のご協力により、今年度も管内全小中学校への訪問をはじめ鹿行教育事務所としての業務を遂行することができました。特に、訪問では、子どもたちのたくさんの笑顔との出会い、教職員の温かく熱心な指導、そして学校に関わる方々のお力添えを感じる機会をいただきました。管内における学校教育に関わってくださっている全ての皆様にあらためて感謝申し上げます。